

小規模溪流対策工

J Dフェンス

建設技術審査証明取得

【概要】

- 近年、地球温暖化の影響による異常気象により、短時間豪雨や局所的豪雨が原因で土砂災害の発生頻度が増加しており、小規模溪流においても土石流・流木が発生する頻度が高くなっている。
- 平成30年7月豪雨では、とりわけ広島県で多くの土石流が発生し、人的被害のあった溪流は多くが小規模溪流であった。
- 流域面積が小さい小規模溪流（「流路が不明瞭で常時流水がなく、平常時の土砂移動が想定されない」、かつ「基準点上流の渓床勾配が10°程度以上で流域全体が土石流発生・流下区間である」、かつ「支溪の合流がない」）では、谷出口に人家が近接しており、ひとたび土石流・流木が発生すると、人的被害など大きな災害となる可能性が高い。
- 同様に、道路や鉄道を横断する小規模溪流も数多く存在し、土石流・流木の発生により人的被害や通行止め・運休などの被害が発生する可能性がある。
- 小規模溪流対策工「JDフェンス（ジェイディフェンス）」を開発し、10月12日付で一般財団法人砂防・地すべり技術センターより、建設技術審査証明（砂防技術）を取得した。
- 技術審査では、水理模型実験により効果的な土石流・流木捕捉性能を有すること、構造計算および安定計算により合理的かつ安全な構造であることが確認された。
- 建設技術審査証明の取得を通じて、JDフェンスの普及促進を図りたい。

